



題字 藤本利夫書

1988年7月9日創刊  
 <毎月1日発行>  
**滋賀県民主教育研究所**  
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目  
 11-3 教育文化会館2F  
 TEL & FAX 077-525-5364  
 教育110番 077-523-3715  
 eメールshiga.minken@gmail.com  
 HP:http://shiga-minken.jimdo.com/  
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)  
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576  
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256  
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

# 『近代滋賀の教育人物史』編纂ばなし

木全 清博(滋賀大学名誉教授)

滋賀県教育史研究会は、本年六月一日に表題の本をサンライズ出版から発行しました。十二人の研究会員が明治期から昭和戦前期までの二十九人の近代滋賀の教育史に関わった人物について執筆しました。滋賀県教育史研究会にとっては、はじめての著作物です。

この研究会は、じつは一九九七年から三年間ほど活動して例会を年に数回、研究会の雑誌を一号出しただけで休会状態でした。二〇〇九年三月から、滋賀県教育史に関心を寄せる若い研究者や教員により、精力的な研究会活動が始められました。研究会は当初二カ月に一回の例会で、その後無理せず二〜三か月に一回になり定着しています。この研究会を支えている精神は、「全国で都道府県教育史のない唯一の県」である滋賀県の教育史を刊行したいとする思いです。滋賀県は、他の府県に劣らず豊かな教育史の蓄積と遺産がある

ことや、官庁統計資料や県下各地の地域資料にも特筆すべき資料が残されていることを、県民が自覚して地域の教育史に目を向けるべきであり県の行政官は後世に残すことに努力を払うべきだと考えます。

『近代滋賀の教育人物史』の編纂にあたって、特定の教育行政官、教育関係者、教師たちの人物像をとりあげて書くとき、「偉人伝物語」や「人物顕彰話」にするのではなく、近代日本史の流れに位置づけ、滋賀の地域で「人間を育てる教育」に格闘した姿を描くことにしました。これまでにも滋賀県の教育者の人物伝の本は、滋賀県教育会編の『近江の先覚』第一集(一九五一年)、第二集(一九九七年)、第三集(二〇〇六年)や、戦前の『近江人物志』(一九一七年)など、多数刊行されてきました。先行研究を参考にしつつも他県出身者で滋賀県の教育に尽力した人物や、郡市町村の地域の学

校教育に身をなげうった人物や、これまで全く取り扱われず最近資料が発掘された人物など、全国的にも注目すべき新しい視点や視角をもった人物を選定しました。限られた頁数では、当然人物選定では止むを得ず今回見送らざるを得ない人物も出てきました。

執筆者たちは自身の足で歩いて人物史の資料を探しまわり、近代滋賀の歴史の舞台で活動した姿をできる限り浮かび上がらせていくという姿勢を共有して、相互に原稿の批判を重ねました。二〇一七年五月頃には原稿も出そろいましたが、慎重を期して史実を確認して、各自の原稿を四・五度と書き直して修正しました。本著を読まれる読者のかたがたの真摯なご批評、ご批判をお願いしたいと思えます。(きまた きよひろ)

## 《 今月の紙面 》

- ・「巻頭言」/木全清博……P1
  - ・歴教協・第70回京都大会が成功裡に終了/奥村信夫……P2・3
  - ・子どもの自立にとって大切なこと/亀苜丈夫……P4・5
  - ・【部会報告】新学習指導要領で『英語教育』はどう変わるか/中等教育部会……P6・7
  - ・【書籍紹介】『近代滋賀の教育人物史』/宮坂朋幸……P8
- 《 2018年9月号 No. 363 》